イスラーム改革運動のはじまり

オスマン帝国の衰退、サファヴィー朝崩壊(1736)、ムガル帝国の弱体化などの影響で、18世紀の中頃からイスラーム世界の政治的混乱が続く中で、オスマン帝国周縁部のアラビア半島でイスラーム改革運動が起きた。

1) イブン=アブドゥル=ワッハーブ(ムハンマド=ブン=アブドゥル=ワッハーブ)1703?-91 は、オスマン帝国の影響下にあった アラビア半島、ナジュド地方(ナジド、ネジドとも書く)でイスラーム教の改革運動を起こした! 彼は、神秘主義や聖者 崇拝を否定し、「預言者ムハンマドの教えにもどれ」と説いた。また神秘主義やシーア派を厳しく批判した。ワッハーブ派 と表記される場合もあるが宗派ではなく、スンナ派に属する改革運動であり、自らがイスラーム正統派だと主張した。これを【1: 】と言う。この改革運動はアラビア半島の大半を覆い尽くした。なお、現サウジアラビアの国教である。 下線部はリード文中でワッハーブ運動を特定するキーとして頻出。

《併せて学んでおこう》これより**約半世紀後にも改革運動**があった

サイイド=アリー=ムハンマド 1819-50 は自らを「マフディー(救世主)と人々をつなぐバーブ(門)」と称して**バーブ 教**を創始した。**シーア派系**の神秘主義的新宗教である。バーブ教は既成宗教儀礼の廃止、階級差別の撤廃、男女平等を説き、イギリスやロシアの圧迫に反発した貧困農民や中小商人の間に広まった。危険視され、教祖は銃殺された。弟子がこれを**バハーイ教**に発展させた。

バーブ教徒の乱 1848-50:英露など外国勢力への屈従に反発した民衆反乱。バーブ教の信仰とは直接の関連はない。

- 3) 一方、18世紀のアラビアでは、神秘主義教団の間でも改革運動が始まった。コーランの朗誦やイスラーム法を教える組織として新しい教団がいくつも成立した。例えば、サヌーシー教団(1837年メッカで成立。1843年以降キレナイカで布教)。
- 4) 19世紀後半以降、ムスリムのメッカ巡礼が激増した。 ← 汽船の発達! 巡礼者を通じて、前掲(2)のワッハーブ運動と前掲(3)の新しい神秘主義教団の動きはアラビア半島を越えて全イスラーム 世界に広がり、現在まで続く影響をのこした。

サウジアラビアの成立

前掲2)のワッハーブ王国を起源として、20世紀に今日のサウジアラビア王国・イラク王国・トランスヨルダン王国が成立した経過を、従来の伝統的な叙述順を無視して、引き続きここにまとめておく。№170で再度述べる。



1)第1次世界大戦が始まり、オスマン帝国(背後にはドイツ)と戦っていたイギリスは、オスマン帝国の後方を攪乱する目的で、高等弁務官マクマホンに、アラブ独立運動の指導者ハーシム家のフセインに反乱をもちかけさせた。両者は1915年、《第一次世界大戦終結後、英国治下のアラブ人に独立国家を認める》という【5:

】※1 を結んだ。

- 2) 1916年、フセインは反乱を起こし、1918年、ア ラビア半島西岸に**ヒジャーズ王国**(左図の a) を建国した。首都はメッカ。この反乱を指導し たのはイギリス人トマス=E=ロレンスである。
- 3) ところが、イギリスの対アラブ工作には2つの ルートがあり、一方はハーシム家のフセイン と結び、もう一方はサウード家を後押しして いた。1924年、後者のグループの支援を受け たサウード家のナジュド国王【6:

】はこのヒジャーズ王国を滅ぼした。 ヒジャーズ・ネジド王国を建てメッカ、メディナを領域に加えた。これが、1932年、サウ ジアラビアとなり、【6】は初代国王となった。 首都はリヤド(宗教的にはメッカ)。

なお、フセインとフサインは発音・表記が違うだけ。2006年12月に処刑されたフセインとは別人。

4) 第一次世界大戦が終わると、シリアはフランスのトランスョルダンとイラクはイギリスの委任統治領となった。フセイン =マクマフォン協定の約束を反故にはできないイギリスは、ヒジャーズ王国滅亡時にキプロスに亡命したフセインの三男 (即位後はファイサル1世) をイラクで、次男 (即位後はアブドゥッラー1世) をトランスヨルダンで王位につけ、それ

ぞれ、イラク王国(1921年成立、1932年独立、1958年まで王政)、トランスヨルダン王国(1928年独立、1946年完全独立、 現在は立憲王政)を成立させた。この時も、イギリスの情報将校【7: 】※2 が活躍した。ファイサル1世の在 位は1932-33年と書かれることが多いが、それは独立(1932)後を正式の国王としたからで、実質即位は1921年である。

- ※1 第一次世界大戦ではオスマン帝国は同盟国側で参戦した。連合国はオスマン帝国に支配されているアラブ勢力に 対し戦争協力を要請し【5】を締結した。アラブ勢力はこの約束を信じてオスマン帝国に反乱を起こし血を流して 戦った。しかし、戦後、イギリスは【5】を無視した。
- ※2 『アラビアのロレンス』: ロレンス (あるいはローレンス) 自身もアラブ人に扮し、アラブ人ゲリラ隊を組織し、 アカバ、ダマスクスを占領しているが、イギリスの多重外交(三枚舌外交)に失望し1922年に辞職、後に交通事 故死している。アラブ人とともに戦った英雄として知られ関連書籍多数(有名な岩波新書 赤73『アラビアのロ レンス 改訂版』は既に品切だが他にも多数ある)、映画化(DVD化)もされたが、アラブ人の間では評価は分か れる。この点は東南アジアにおけるハリマオと似ている。なお、ロレンスは考古学者でもある。

ロレンスが考古学者でもあったことは、ハリソン=フォード演じる行動的な考古学者が活躍する荒唐無稽な娯楽 映画『インディ・ジョーンズ』シリーズのキャクター&時代性の設定に影響を与えたかもしれない。

《重要》 │ フセイン・マクマホン協定(1915)の2年後(1917)に、イギリス外相バルフォアが**パレスチナにおけるユダヤ人国** 家の建設支持を表明した【8: 】(1917)を出したが、両者は矛盾するものだった。

これより早く、フセイン・マクマホン協定の翌年(1916)、イギリス・フランス・ロシアが第一次世界大戦後のオ スマン帝国領の分割とパレスチナの国際管理などを協定した【9: 】 もフセイン・マクマ ホン協定とは矛盾する。これは秘密協定であったが、1917年11月ロシア革命政権が暴露したため全世界の知ると ころとなり、アラブ側は憤激した。

これらについては第1次世界大戦の項で再度扱う。

3つの重要文書の歴史的順序は フセイン=マクマホン協定(書簡) 1915年

> 01K → サイクス=ピコ協定

1916年

→ バルフォア宣言

1917年

《覚え方》お気づきでしょうか。偶然にも日本語文字列の長い順です。

アラブ民族の新たな覚醒

前掲のように、18世紀におけるイスラーム改革運動はワッハーブ派であった。では、イスラーム改革運動は19世紀にはい かなる展開を見せるのか。これも従来の常識的な叙述順を無視して、引き続きここにまとめておく。

1) 19世紀、新聞、雑誌がさかんに発行され、ムスリムの知識人がグローバルに意見交換できるようになった。19世紀後半、 広くイスラーム世界やヨーロッパを遍歴したイラン出身の思想家【10: 】 1838/39-97 の提唱で、≪全世界の イスラーム勢力が一つにまとまろう≫という【11: 】の思想が生まれた。oik 彼はアフガン人 ※3 という意味で自らアフガーニーと名乗った。彼はイスラーム世界の復興のために、各国において専制から立憲制への変革 をすすめることを訴えた。エジプト滞在中に育てた弟子たちの多くはウラービー革命(1881-82)に参加した。彼自身も、イ **ランのタバコ=ボイコット運動**(1891)の時は、各地のウラマーの指導者に手紙を送り運動への参加を促した。

アフガーニーの思想の特徴:それまでは、オスマン帝国の臣民を宗教の如何にかかわらず平等なオスマン人とみなし たり、トルコ人・アラブ人など同じ民族であれば宗教の如何にかかわらず同胞と見なしたりしてきた。これはいずれ も無理がある。再び宗教(イスラーム)で団結して近代的なイスラーム国家を作ろうというのがパン=イスラーム主義

※3 アフガン人:アフガニスタンで多数を占める民族。パシュトゥーン人とも言う。

2) アフガーニーの影響を受けウラービー革命(1881-82) に参加したエジプト人の【12: 1849-1905 は教育と宗教の分野で、近代的な要素を取り入れたイスラーム改革に取り組んだ。彼の思想と行動は、アフガーニーとと もに発行したアラビア語の雑誌、『固い絆』を通じて全イスラーム世界に伝えられ、各地に大きな影響を与えた。

この冊子のタイトルはクルアーンの一文「固き絆によって連帯せよ」に由来。

3) ムハンマド=アブドゥフの弟子、シリア出身の【13: 思想を、中東以外の東南アジアなどにひろめた。

▮ 1865-1935 は雑誌を発行してイスラームの改革の

《ワッハーブ後に登場するパン=イスラーム主義はこの3人を覚えよう》

①アフガーニー 1838/39-97: 理性と行動の人

②ムハンマド=アブドゥフ 1849-1905: アフガーニーの思想を確立

①②の両者が協力して発行していたのがアラビア語雑誌『固い絆』である。

③ラシード=リダー 1865-1935: アフガーニーの思想を詳しく論じ中東以外にも広めた。

パン=イスラーム主義はイスラーム復興運動の源流であると言える。

4) イギリス支配下のインドでは、【14: 】1817-98 は、イギリスと協力しながら西洋の思想を 取り入れて近代的なイスラーム社会を作ろうとした。1875年にアリーガル=カレッジを設立、ムスリム子弟の教育にも貢献 し、多くの植民地官僚を輩出した。全インド=ムスリム連盟の思想的基盤ともなった。インドでは複数の民族・宗教が共存 し、植民地化も早くから徹底して進行していたこともあり、インドではパン=イスラーム主義は広まらなかった。

2012センター(抜粋)

18世紀の ア では、 イ がイスラーム改革運動を起こし、聖者への崇敬は預言者ムハンマドの時代にはなかったとして、 豪族サウード家と結んで聖者などの墓廟を破壊していった。 正解 ④

- ① アーエジプト イーワフド党
- ② アーエジプト イーワッハーブ派
- ③ アーアラビア半島 イーワフド党 ④ アーアラビア半島 イーワッハーブ派